

都道府県等名：岡山県

目的	目標	目標値及び実績			事業実施主体ごとの達成度			交付金相当額 (円) (うち地域提案メニュー)	事後評価	
		目標値	実績	達成度	事業実施主体	目標	達成度		評価及び指導方針等	第三者の意見
I 農畜水産物の安全性の向上	農薬の適正使用等の総合的な推進	農薬の不適切な販売及び使用の発生割合 5.0%	0.5%	104%	岡山県	5.0%	104%	237,000	農薬の使用基準の遵守、安全かつ適正な使用及び保管管理については、啓発資料の作成や研修会による指導、農薬販売者に対する立入検査時の周知啓発及び改善指導を継続して実施しており、農薬の不適切な販売及び使用の発生割合についての目標を達成できた。特に令和4年度は、新型コロナウイルス感染症のため対面での指導が難しい場面も多かったが、研修会については工夫して対面で6回実施できた。そのため、これまでの指導による成果は十分にできていると考えており、今後も農薬の使用基準の遵守、安全かつ適正な使用及び保管管理、適切な取扱いや販売の推進などの指導を継続していく。	(1) 農薬の安全使用の推進、(2) 農薬の適切な管理及び販売の推進の事業内容において農薬販売・使用者を中心に事業が実施された。令和4年度も農薬危害防止運動を実施し、ゴルフ場など農業者以外の農薬の適正使用指導も適宜行っている。また、コロナの影響で制限的ではあったが、農薬危害防止対策協議会、農薬危害防止運動、啓発活動を実施し、達成度は100%を超えた。農薬販売所の1,214件のうち101件を令和4年度は適宜、立ち入り検査を行い、1件の規定違反があったが改善指導を行って適切に対応されている。これらのことから農薬の適正使用等の改善点を指摘し、総合的な推進が達成できていると判断する。 引き続き、農薬の適正使用等の総合的な推進についてご指導いただきたい。
	海洋生物毒等の監視の推進	海洋生物毒のモニタリングの総実施数及び有害微生物又はノロウイルスのモニタリングの総実施数 1,082回	1,220回	112%	岡山県	1,220回	112%	1,317,000	二枚貝類（カキ・アサリ）の生産時期を中心に調査計画どおり効率的な調査が実施でき、貝毒に係るリスク管理の徹底及びノロウイルスを保有するカキの流通を防止し、貝類の安全性の確保が図られた。	カキ等の食用二枚貝類の毒化は、近年、全国的に多発しており、消費者の関心も高いことから、特に食の安全性の確保が求められる。貝毒発生状況の監視には、きめ細やかな漁場の調査及び二枚貝の検査が最も重要となるが、本事業において実施された調査の時期、検査の手法、対象範囲及び回数等は的確、適正で、効率的な貝毒リスク管理が行われており、評価できる。 また、養殖カキのノロウイルス汚染は風評被害を伴うことがあり、流通状況に大きな影響を及ぼす可能性があることから、生産者と連携した詳細な漁場監視体制により、安全性の確保を図っていただきたい。
II 伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	家畜衛生の推進	家畜衛生に係る取組の充実度 95.2	87.3	91%	岡山県	95.2	91%	3,917,000	アジア諸国における口蹄疫やアフリカ豚熱等の発生状況、国内における豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の発生状況等、家畜衛生に関する情報を迅速・的確に畜産農家及び関係機関に対して提供することで、関係者の家畜防疫に対する意識が高まった。 また、家畜伝染病の発生防止のため、衛生指導、慢性疾病等の実態調査・分析・指導等の取組を強化し、検査機関における検査機器の校正及び体制の整備を実施したことで、伝染性疾病に対する的確な対応や検査が可能となり、農家の家畜伝染病に対する防疫意識の向上及び防疫体制の充実強化が図られた。 こうした取組を実施した結果、本年度の目標値については、概ね達成することができた。 一方、令和4年度は県内で4例発生した高病原性鳥インフルエンザの防疫対策等に忙殺され、伝染性疾病の検査を目標どおり実施することが出来なかったことから、今後は、家畜伝染病の発生防止をより一層強化するとともに、検査件数の向上に努め、家畜衛生の推進を図りたい。	検査室における検査機器の精度管理は確実に検査を行ううえで重要であり、国内で発生している高病原性鳥インフルエンザ及び豚熱並びにヨ一ネ病検査機器については、毎年外部精度管理を行っており、またその他の機器についても計画的に年度ごとに校正しており、適正に行われていると判断する。 一方、農家段階でのリスク低減対策として、まず農家に国内でのHPAI発生情報や豚熱の野生イノシシ等での発生を情報提供するとともに、牛にあっては立入禁止看板設置など、危機意識を向上してもらうことが必要で、衛生対策強化につながった。 また、発生に備えた防疫演習の開催、地域推進会議開催など、地域における衛生対策強化に努めた点についても高く評価できる。 さらに、地道な検査と指導を要する慢性疾病対策、検査対象を絞ったBSE及びBVDについても確実に実施しており、清浄化の維持・確認に貢献した。
					(一社)岡山県畜産協会	95.2	91%	604,000		
					おかやま酪農業協同組合	95.2	91%	1,267,000		
					岡山県養豚振興協会	95.2	91%	2,434,000		

<p>養殖衛生管理体制の整備</p>	<p>養殖衛生指導を実施した経営体数の割合 64.3%</p>	<p>64.3%</p>	<p>100%</p>	<p>岡山県</p>	<p>64.3%</p>	<p>100%</p>	<p>530,000</p>	<p>巡回指導の継続により養殖業者との連絡体制が構築でき、疾病発生の際には迅速に対応できている。また、指導会議により水産用医薬品の適正使用等についての最新情報を養殖業者へ周知することができた。</p>	<p>養殖魚類等の安全・安心な供給のためには、持続的養殖生産確保法に基づく防疫制度及び食品衛生法や医療品医療機器等法などによる養殖衛生管理体制の徹底が必須である。また、魚病の発生に対しては、迅速な情報収集と感染経路の特定及び疾患ごとの適正な医薬品使用が重要となる。</p> <p>本事業では、各養殖場の巡回指導調査・監視による疾病伝播防止対策や医薬品残留検査等法令に基づく医薬品適正使用のための養殖衛生管理指導等が的確に実施されている。こうした対応により、適切な養殖衛生管理体制の整備や養殖漁業者等の医薬品使用に対する正しい認識が醸成されてきており、評価できる。</p> <p>今後とも、県民への安心・安全な水産物供給のため、養殖衛生管理体制整備の一層の充実・強化を図っていただきたい。</p>
<p>病害虫の防除の推進</p>	<p>従来の防除対策では防除が困難な作物の防除体系等における防除に関する管理手法の現状値からの向上率 133%</p> <p>従来の防除対策では防除が困難な作物の防除体系等の普及取組数 7回</p>	<p>133%</p>	<p>100%</p>	<p>岡山県</p>	<p>133%</p>	<p>100%</p>	<p>2,325,000</p>	<p>本年度は取り組んだ5品目の4病害虫において、防除が困難となっている病害虫対策技術確立のための成果が得られ、目標値の達成度は100%と適切に実施された。今後さらに、従来の防除対策では防除が困難な作物について、防除技術確立のための試験研究を進める必要がある。</p>	<p>(1) 防除が困難な作物の防除体系の確立 (ア) 発生パターンの変化や使用可能な農薬の減少により防除が困難となっている作物に対する防除体系の確立 [ブドウ：チャノキイロアザミウマ] 青系ブドウの顆粒を加害するアザミウマ類としてチャノキイロアザミウマとネギアザミウマが知られている。これら2種について、加温する時期によって発生が異なるのかを調べた結果、加温ハウスではチャノキイロアザミウマの発生が早くなることがわかった。アザミウマ類の発生生態を解明し、それに基づいて施設内越冬個体の防除といった効果的な防除法を模索されている。今年度は農薬スクリーニングも行き、効果のある農薬を特定できた。農薬以外の防除でも光反射資材および赤色ネットの実用性を確認できた。防除が困難な害虫に対して適切な防除方法の検討が行われていると判断する。</p> <p>(イ) 薬剤抵抗性病害虫・雑草により防除が困難となっている作物に対する防除体系の確立 ○ ローテーション散布等の防除体系の検証等 [アスパラガス：斑点性病害] 県の重要品目であるアスパラガスの葉を侵害する病害(褐斑病、斑点病)の主要病害を調べたところ、褐斑病が重要な病害であることがわかった。そこで昨年までに調査済みの菌の発生生態のデータに基づいて、令和4年度は(1)薬剤耐性褐斑病菌に有効な薬剤を選抜した。さらに(2)散布回数に制限のないコサイド3000に展着剤を加えることで防除効果の向上が認められた。選抜された薬剤と展着剤の組み合わせを組み込んだ防除体系を作成するもととなるデータがそろったと評価できる。</p> <p>[イチゴ：アザミウマ類] 昨年度までの課題で天敵(リモニカスカブリダニ、アカメガシワクダアザミウマ)を利用して微小害虫を防除する体系を模索したところ、ハダニ類に対しては農薬と天敵を組み合わせた有効的な防除体系に目途が付いた。そこで令和4年度からは、依然として新たに防除が困難となっている害虫であるアザミウマ類について農薬の感受性検定を行い、効果的な薬剤を選抜することが出来</p>

										<p>た。これらの結果をもとに次年度以降は、生物農薬としての天敵に対する給餌、天敵温存植物の検討を展開する。難防除害虫に対して生物農薬を効率的に使用する道筋を作る課題として評価できる。</p> <p>[水稻：イネばか苗病] 岡山県内で種子伝染性のイネばか苗病の発生が増加しているため、令和4年度はその発生状況、多発要因の解明、薬剤感受性の実態について解明を行った。他県および岡山県でも耐性菌が見つかるため、感受性菌と耐性菌に対して有効薬剤の選抜を行ったところ、2種類の薬剤（ヘルシードTおよびテクリードC）が耐性菌に対しても有効であることが判明したことは高く評価できる。</p> <p>（ウ）基幹的マイナー作物の病虫害・雑草防除技術体系の確立 [エンダイブ：ハスモンヨトウ] 今年度も、エンダイブの害虫のハスモンヨトウ防除を目的として薬剤の効果判定を行ったところ、既存薬剤に勝る防除効果をもつ薬剤がわかった点が評価できる。</p>
総 計・総合達成度				総合達成率 95% 総合評価 A				12,631,000		

都道府県等名：岡山県（特別交付型）

目的	目 標	目標値及び実績			事業実施主体ごとの達成度			交付金相当額 (円) (うち地域提案メニュー)	事後評価	
		目標値	実 績	達成度	事業実施主体	目 標	達成度		評価及び指導方針等	第三者の意見
Ⅱ 伝 染 性 疾 病・病 害 虫 の 発 生 予 防・まん 延 防 止	家畜衛生の推進 (特別交付型交付 金)	豚熱及びアフリカ豚熱 のまん延防止	豚熱及び アフリカ 豚熱のま ん延防止	達成	岡山県	豚熱及び アフリカ 豚熱のま ん延防止	達成	16,262,000	<p>野生イノシシや人流を介した感染地域の拡大や家畜養豚へのまん延を防止するため、水際対策の強化として、岡山桃太郎空港や水島港における靴底消毒を実施することで、県内への豚熱及びアフリカ豚熱の侵入を防止する効果があった。</p> <p>また、令和4年シーズンは、県内で4件の高病原性鳥インフルエンザが発生したが、防疫体制の整備（旅費（家畜防疫員以外）、食糧費、集合場所への送迎等）を実施し、防疫措置を迅速かつ的確に行ったことで、高病原性鳥インフルエンザのまん延を防止する効果があった。</p> <p>さらに、野生いのししのサーベイランス検査を促進し、監視体制の強化により、県内野生いのししの豚熱等浸潤状況を継続的に把握することができ、豚熱等対策への体制構築へ寄与することができた。</p>	<p>岡山桃太郎空港の乗客・乗員と水島港における貨物船乗務員の靴底消毒の徹底、検疫所の実施する空港における畜産物等の土産物検査など、水際対策としては効果的と考える。防疫は、あらゆる対策を確実に継続することで、効果を発揮するものであり、今後も継続する必要がある。</p> <p>また、発生に際しては迅速な対応が求められるが、4件の高病原性鳥インフルエンザ発生に際し、各農場における防疫計画をもとに修正しつつ確実に対応できたことは、評価に値する。豚熱については、周辺の隣接県において野生イノシシで発生があったものの、県内では陽性例が無く、本来の疫学的見地からの割り当て検体数を超えての捕獲イノシシのモニタリング検査の実施が求められたと推察される。今後とも、ウイルス監視の強化を継続してゆくよう願う。</p>
総 計・総合達成度				総合達成率 達成 総合評価 適正			達成	16,262,000		